

2050年低炭素ビジョン実現プロジェクト

〒604-8124
京都府京都市中京区帯屋町574番地
高倉ビル305号
電話:075-254-1011
E-mail:kyoto@kikonet.org
http://www.kikonet.org/



ひろげる助成
3年目
知識の提供・普及啓発



マースシャル諸島での気候変動の影響について

シンポジウムの参加人数	150人
メディア掲載数	74件
今年度計画の達成度	90%
活動の全体目標に対する達成度	80%

苦労した点と工夫した点



■ 苦労した点

国際動向・政策動向の急速な変化があり、柔軟な対応が求められ、スケジュール及び企画内容の変更などが必要であった。

■ 工夫した点

スケジュールの変更に合わせた実施体制を整えた。また、国内の動向だけでなく、積極的に海外からのゲストを招き、海外の最新動向を発信する機会を設けた。

課題

2050年における温室効果ガス削減シナリオの実現性や達成のための道筋が明らかになっていないことから、その土壌づくりを推進させる活動を行うこと。

目標

●セミナー、シンポジウムの開催を通じて、長期大幅削減の必要性を発信し具体化へつなげる。●対策事例、政策についてとりまとめた冊子、書籍の発行を通じた情報発信。

活動内容と成果

地球温暖化問題が深刻化する中で、市民の理解を広げると共に、マスメディアや政策決定者に対して、対策の動向と先進的な政策に関する情報提供を実施。全国シンポジウムでは、参加者の満足度が平均3.9点(5点満点、目標4点)であった。

また先進事例をとりまとめた情報発信等を通じて、2050年の温室効果ガスの大幅削減へ向けた道筋の明確化へとつなげる活動を実施。今年度は、気候変動の被害を受ける国からゲストを招いたほか、再生可能エネルギー100%へ向けた取組みについての発信を中心に行った。

全助成期間の活動を振り返って

パリ協定が早期に発効したことが最も大きな変化としてあげられる。脱炭素社会の構築へ向けた取組みは加速しており、2050年に大幅削減を実現する必要性は、よりいっそう高まっている状況にある。先進事例紹介だけでなく、気候変動による被害を受ける国からの声を届けるなど、国際的な視点からも積極的に活動を行ってきた。また、SDGsとの関連から企画を実施するなど、環境問題の横のつながりを広げる取組みも実施した。



海外のゲストを招いたシンポジウムを開催



シンポジウムの登壇者、参加者の方々と

今後の展望

現在、3年間の知見を踏まえた書籍の発行を予定している。

また、長期大幅削減へ向けた、具体的なシナリオの提示までには至らなかったが、引き続き検討を進めたいと考えている。現在、外部協力者とも検討を重ねており、削減シナリオの具体化へ向けた研究、調査とその結果を広く伝える担い手づくりを行っていく予定で、パリ協定を具現化していくことをめざしている。